かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314

「稲」金色にかがやく穂波

初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう　伝えよう　広げよう

一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教174年
9月号

若いうちから会活動を！

『あらきとうりよう入門塾』開催

青年会

青年会笠岡分会では、８月15、16の両日、大教会で『あらきとうりよう入門塾』を開催し、17名（うち高校生層９名）が参加した。この行事は、高校生層を対象に、青年会本部が今年より提唱しているもので、笠岡分会では、『学生生徒修養会・高校の部』の参加者が、そのまま受講できるよう、８月15日からの開催とした。

初日は、親睦のバーベキューを行い、まず腹ごしらえ。夕づとめ後には、自分の過去・現在・未来の事を語り合うグループタイムを設け、参加者同士、また委員と参加者の親睦を深めた。

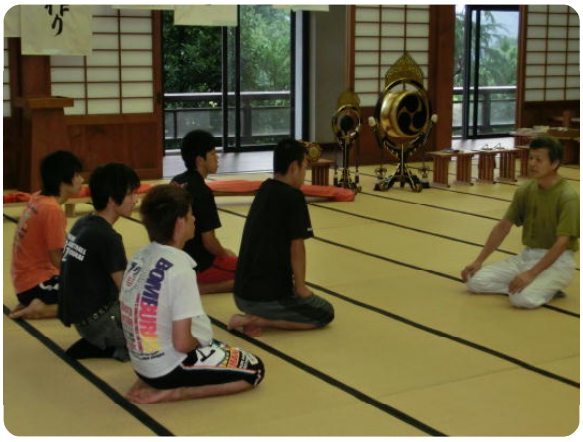
２日目は、上原繁道先生より講話。それぞれの先代の信仰のおかげで今日の自分たちがある事や、笠岡の初代様の逸話を聞かせて頂いた。その後、風呂そうじと、舞台資材運搬ひのきしんに汗を流した。

最後に親睦ボーリング大会を催し、参加者はみなそれぞれ、楽しいひと時を過ごした。

今回、青年会行事に初めて参加してくれた会員もおり、若いうちから、青年会行事に触れる重要性を改めて実感。笠岡分会として、来年以降も『あらきとうりよう入門塾』を開催していく予定です。

（青年会笠岡分会委員長　上　原　繁　次）

肉への熱い眼差し



初代様のお話を聞かせて頂く

おもしろ話などを語った

舞台用コンパネを運ぶ

大教会本年心定め

○初　席　者　数	２７９人	（６３人）
○よ ふ ぼ く 数	２１７人	（３５人）
○修養科修了者数	１３５人	（１０人）
○教人登録者数	１１４人	（　０人）
○参考）教人資格講習会		（　１人）
教会長資格検定講習会		（　３人）

（括弧内は１月１日～８月３１日）

記念祭までに心定めを完遂するよう
つとめさせて頂きましょう

青年会・女子青年 合同行事を開催

青年会笠岡分会と婦人会笠岡支部女子青年は、8月28日、大教会で合同行事を開催し、46名（青年会17名・女子青年17名・その他12名）が参加した。

この日は、まず全員でおつとめをつとめた後、笠岡大教会育成掛の、佐藤道孝先生が講話。先生は、自身の体験談を交えながら、おつとめとおさづけなどについてお聞かせ下され、参加者は熱心に耳を傾けていた。

続いての班別対抗ミニゲーム大会では、班員一人一人が、正義のヒーローで、敵のしかけてくるゲームをこなしていくという設定で進められ、班で協力し合う姿が見られた。

午後からは、中庭の窓枠拭きと除草ひのきしんを行い、爽やかな汗を流した。その後、『笠岡ビューティーコレクション』を開催。各班代表の男子が、いかにキレイな女子に変身するかを、班毎にプロデュースしてもらい、様々な設定の美女（！？）が誕生した。

最後に各会毎に、活動紹介と創立120周年記念祭への呼びかけを行った。

参加者は1日を通して、縁あって同じ笠岡につながる若者どうしの絆を深め、記念祭への意気を高めた。

ヒーロー大集合

隅々まで心をこめて

優勝したチームのショータイム

府中市内で手をどりまなび

全分会 布教推進週間 開催

青年会

青年会笠岡分会では、8月28日～9月4日を、『全分会布教推進週間』として、各分会で活動を展開した。（※活動集計は10月に発表）

その中、キャラバン隊の活動として、大教会、府中市分教会、久松分教会、海松ヶ岡分教会（活動日順。福山分教会と東悠分教会は、台風のため中止）を拠点に、それぞれの街で神名を流した。「できる活動を全教会で！」

本年、各分会からの活動計画提出状況は良くなかったが、キャラバン隊で行かせていただいた教

会は、例年より参加者が増えている所が多かった。例を挙げると、海松ヶ岡分教会では、教会子弟に加え、その友達の中学生たちも参加し、数年後には青年会員となる若い力が加わった、勇んだ活動となった。

この『全分会布教推進週間』は、文字通り、「全分会(教会)」で活動を繰り広げるところに、意義があります。神名流し、路傍講演ばかりが、活動の全てではありません。各教会の状況、年齢層に合わせて、ひのきしんなどでも構いません。1人からでの活動で構いません。どうか来年以降、各分会で計画・実施・報告ができますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も推進週間にご協力頂きまして、誠にありがとうございました。

（青年会笠岡分会委員長　上原　繁次）

協力して作ったごはんは美味しいネ！

足下は悪くても子どもたちは楽しそう！

テーマは達成できた... カナ？

みんな集まれ サマーキャンプ 開催

少年会

久しぶりに素晴らしいキャンプ場に巡り会った。今年のキャンプはイイぞ。・・・6月に下見してそう思った。

一晩休んだ朝は涼しい風が吹きそうだ。森に囲まれ水はけのよさそうなテントサイト、「燃えろよ♪ 燃えろよ♪」と唄う歌が似合いのファイアー場、整然と並んでいる使いこんだカマド、水の流れがよい流し、そしてなにより雨や雷等、もしも危険な状況になった場合の避難場所(体育館)もあり万全だ。

そして朝夕のおつとめもちゃんと出来そうだし天理キャンプというに相応しいキャンプ場だ。

他にもプール、公認フィールドアスレチック場も完備。

22日朝大教会に集合し、育成会長さまより「自然との共生を楽しみ、みんなで助け合うキャンプにしましょう」とごあいさつを頂きマイクロバスに乗り込み出発です。

予報では天気があまり良くないけれど子供達のテンションはどんどん上がりプラス思考でいくことです。しかし、キャンプ場に着いてから資材の搬入をする頃からポツポツと雨が降り始めてなんと皮肉なことにテントを張り終えた直後、本格的な雨となった。

一旦体育館に荷物を置いて夕食の準備に取り掛かった。今日のメニューはカレーライス。先ずは飯盒で米を洗い薪を割り、火をつける役は男の子、野菜を切ったり肉の用意は女の子と分担が自然と決まるのが不思議。モウモウとした煙の中でごはんを作るなどは家では味わえないこと。正に火、水、風の調和を体験。みんなで助け合いながら作って食べるごはんは美味い。スープのような薄いカレーや焦げ付いたご飯もなんのそのだ。

夜は近くの風呂屋で入浴。残念ながら雨のため体育館で寝る。屋根を打つ雨音が一晩中聞こえて明日も天気が悪そうだなあ。

朝起きるとやはり雨、キャンププログラムを大幅に変えて　午前中はごはんづくりとクラフトをする。

昼からは予定どおりプールタイム。雨の中だがみんな喜んで泳いだり、ウオータースライダーを楽しんだ後、風呂で体を温めてから夕食の準備、炭を熾してバーベキューです。

一日中動き廻ったのでみんな食欲旺盛。雨の中での炭火が程良く体の温みを助けてくれる。

今夜も広い体育館で就寝。あちこちでいびきや寝ごとが聞こえる。外ではヒキガエルがゲロゲロ。・・・明日は晴れてほしい。

みんなの願いが通じたのか三日目の朝、さわやかに晴れわたり今日こそキャンプ日和。やっと外でのプログラムができる。

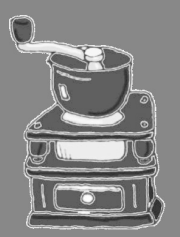
登山の予定だったが道が二日続きの雨でずるずる状態。オプションのクイズラリーをすることにした。子供たちは5、6人づつのチームに分かれ、ポストが記してある地図を見ながらキャンプ場内を走り回って遊び、気持ちの良い汗をかいて飲むお茶はうまい。

お楽しみの後は撤収。寝れなかったけど濡れたテントを干して荷物の片付け。最後に退村式をして予定どおり午後3時に無事帰会。

キャンプのテーマである「自然との共生、たすけあいと創造」は達成できたのか？ 答えは子供たちの記念写真に写っているようです。

（少年会笠岡団団長　中島　誠治）

談話室



ひのきしん

甲井分教会前会長　山田　敏教

詰所のひのきしんは毎月の事で、別に変わりはないが、大人より子供の団体の方が、時間が厳しいので、短時間で終わられる。（朝六時三〇分放送と同時に殆どの子が食べ終えるが、大人は八時過ぎる人がいる）今回の前期、後期十日間、受入ひのきしんに、勤めて下さった人達非常に暑い中、頑張られ共々に汗を流し、協力し合う姿に、五日目の別れは、感極まり、手を取り合って、又のひのきしんを楽しみにお帰りになりました。その中でも毎月御夫妻で、ひのきしんに来て下さいます福芦分教会内、福芦門真布教所の、藤原さん夫妻。ふうふそろうてひのきしん　これがだいゝち　ものだねや　以前から思っては、いましたが、なかなか、二人で勤めるのは、大変な事と思って居りましたが、二人の姿に、感動し、主人のひた向きな、ひのきしんの姿を毎月、見せて頂き、奥様のテキパキとされる姿、負けてはおれぬとこどもおぢばがえりより、妻と共々に、勤めさせて頂く中、十日間は、さすが疲れた様だったが、夫婦共々、毎月勤めさせて頂くと心を定めさせて頂き、八月二十五日、朝から改めて誓いを新たにした次第でございます。

第94回「心を育てる教職員の集い」に参加して

吸江分教会　西村　絵里子

8月7日・8日と2日間、「心を育てる教職員の集い」に行ってきました。この集いは教育に関係している人たち（現役の人、退職している人、めざしている人など）が全国から集まり、研修を通して高め合っていこうという会です。20代～90代まで327名が集まりました。

1日目は、本部員の宇野義明先生のお話が心に残りました。奈良県の教育委員会の教育長もされた方で、宗教家から一人是非、教育委員会へということで呼ばれたそうです。お話の中で、教育委員会の人たちにこの先生が最初に言われたことが

印象的でした。『「宗教」という字、これは「うかんむりに　示すに　教え」、つまり「家の中で親が示す教え」ということです。だから宗教は特別なものではなく、宗教アレルギーを起こさないでください。ただ、家の中で親が子供に示す教えと考えたらいいです』と言われたそうです。宗教は普通、公的教育には受け付けられません。しかし、このお話を聞いて心が軽くなりました。

２日目は、体験発表での京都の先生のお話が心に残りました。借金ばかり作っていた発表者の先生の父親は、家の中ではひきこもり、布団にずっとくるまっていたそうです。借金が趣味のように次々と事業に手を出し、作った借金は１億２千万。それでも、自分の因縁を生き切った父親に感謝したいという言葉がすごく印象的でした。私も時に親などに不足してしまうことがありますが、みんなそれぞれ自分の因縁と向き合い、因縁を生き切っていることを知ると、今の自分があることに、親や周りの人たちに感謝しなければと思わせていただきました。またＮＰＯ法人スペース海代表の方のお話「トンカツのパン粉の法則」も心に残りました。この方は、重度の知的障害の娘さんの父親でもあります。自分の娘は何もできないと思っていましたが、親孝行ができると諭されたそうです。親孝行とは、親を喜ばせること。だから、親自身が子どもの小さな変化に目を向け、いっぱい喜ぼうと思われたそうです。このことを、トンカツのパン粉に例えられました。『感謝や喜びのパン粉を重ねれば、どんな肉でもおいしいトンカツができる。逆に不足のパン粉を重ねれば、どんな高級な肉もまずいトンカツになってしまう。』わたしも自分の子どもに、また学校の子どもの中に喜びを見つけ、たくさんのありがとうのパン粉を重ねていきたいと思いました。

他にもこの集いでは、オーケストラ鑑賞、祭儀の練習、話し方の勉強など好きなものを選んで受けたり、グループトークをしたりしました。この２日間はとても内容が濃く、たくさんの刺激を受け、前向きな気持ちになりました。それは年代を問わずいっしょに悩みを語り、夢を語ることができるからだと思います。来年も夏休み期間中にあるので、また参加したいと思います。

修養科三ヶ月を振り返って

松都分教会　勝田直樹

ほぼゼロからのスタートだった。小学生の時にこどもおぢばがえりにいって以来の天理教だった。うろ覚えで何となく座りづとめが出来る程度の知識しか無かった。

この修養科の事を知ったのはつい最近で、自分が仕事やプライベートの事でつまずいて悩んでいた時、父から天理教には三ヶ月間、おぢばで自分を見つめ直す所があると聞いていた。その時は何気なく聞き流していたが、いよいよ自分の中で仕事を続けていくのがしんどくなって、ふと父に言われた修養科の事を思い出した。今までの生活をリセットして生き方を見つめ直し、また新たにやり直すつもりで修養科に行ってみようと決めた。

父からは、もし修養科に行くなら気候の良い三、四、五月が良いと言われていたが、仕事に引き継ぎ諸々で、結局六、七、八月の一番暑さの厳しい時期になってしまった。天理教や修養科に行く事に対してあまり不安に思うことは無かったが、僕は暑がりで、一番暑い最中に行く事だけが気がかりだった。

五月末、身の回りの整理をして駆け込むようにおぢばに帰り、詰所で自己紹介。今回の修養科生は僕を含めて四人、年は僕が最年長だったが、お道の知識はほぼゼロの僕が一番の初心者だった。

修養科では、色々な身上、事情の人がいた。年を取った人、若い人、身体の不自由な人、心を病んだ人、本当にごちゃ混ぜだった。

修養科生の一日は、朝五時に起きてひのきしん、朝のおつとめをして、朝食。九時から修養科で、教典、教祖伝、おてふりを学び、昼食。午後から鳴り物練習やひのきしん、昼過ぎには修養科は終わり、夕方から詰所でひのきしん、五時半から夕食、その後、夕方のおつとめ、おてふりの修練、就寝。それとは別に、二、三日に一度、朝夕の神殿掃除があった。夕方の神殿掃除はさほど大したことは無いが、朝の神殿掃除は三時過ぎに起きて四時から掃除。あまりに早すぎて清々しい気持ちは一切無かった。正直なところ、学生の時に戻った気分で、働いていた時の方がよっぽどしんどかったと思う。ただ、朝夕、詰所と修養科の片道二キロを汗だくになりながらの行き帰りだけが大変だった。

最初の一ヶ月は全てが初めての事で、色々と気疲れもしたが、二ヶ月目からは生活にも慣れて、と言うよりも慣れすぎて中だるみに。それでも天理教の成り立ちや、初めて習う十二下りのおてふりは新鮮で楽しかった。

三ヶ月目、七月末からこどもおぢばがえりがあった。前にも書いたが、子供の頃に何度か行った事はあったが、今度は自分が迎える立場だ。僕はカレー食堂のひのきしんが当たっていて、十日間毎日食器洗いをした。この期間中は修養科は休みで、詰所での修練も無い。ものの見事におてふりを忘れた。

それでも三ヶ月の修養生活の終わりにおつとめ学びがあると思うと気合も入るし、忘れていたおてふりもある程度思い出して、ある程度様になった。

最後に、この修養科三ヶ月を振り返って、このおぢばで、親神様のお導きで出会った様々な人達と過ごした三ヶ月は、ここでしか味わえない貴重な経験と素敵な思い出になった。これからまた社会に戻ってもこの事がしっかりと僕の心の支えになると思う。

3ヶ月間の修養科を終えて

東水島分教会　國末佳子

私が修養科を志願した理由は、早くようぼくになって病気で困っている方を一人でも多く助けたい。自らの身上を治したかったからです。

一ヶ月目は本当に分からない事が多く、夜も不安でなかなか寝つけなくて、教養係の先生方に毎日おさづけを取りついで頂いていました。二ヶ月目になると、ようやく気持ち的にも落ち着いてきて、色んな人の体験談等色々な話しを聞いたりし、時には一緒に泣いたり、ふざけ合ったりもあり、こどもおぢばがえりの時は、本当にしんどくて、なんでわざわざこの期に来てしまったんだろうって思ってしまった時も正直ありました。けど、詰所の皆さん、クラスの皆に励まし合って何とかこどもおぢばがえりを乗り越える事が出来ました。

三ヶ月目は本当にあっという間だったし、身上で来ていた私は数える程しか朝勤めも出られなくて、だんだん不安と焦りの気持ちばっかりになってしまって、本当に後一ヶ月で手振りも琴も完璧に覚えて帰れるかな？　って内心本当に焦りまくりで、休み時間とかの少しの時間も使ってクラスの皆に手振りで不安な所とかを何回も何回も繰り返し教えてもらって何とかついて行けているって感じでした。

そして八月二十日にやっとおさづけを拝戴する事も出来、喜びと感動で胸が一杯でした。次の日、早速クラスで風邪をひいている方が居たので、おさづけの取次をさせて頂きました。せっかくいただいたおさづけを使わないなんて本当に勿体ない！　これからは、もっともっと困っている方、病気の方の為に、おさづけを取次がせて頂こうと思います。

私にとってこの三ヶ月間は本当に一生の宝物になると思います。この気持ちを忘れず、これからは、より一層教会の為に頑張ろうと思います。

「世界一れつ皆きょうだい　道の仲間は、きょうだいの中のきょうだい」

毛布襟付けひのきしん 9月5日 大教会で

婦人会では9月5日、午前9時半から午後2時半まで約80人が参加して、講堂を中心に各部屋で毛布襟付けひのきしんを行った。詰所宿泊者用として使用される物。

テキバキと毛布の襟が付けられていく

平成23年8月6日

原爆の記憶

芦品分教会役員　中村昭雄

広島に原爆が投下されて66年。去る8月6日、広島市の平和記念公園で原爆死没者慰霊式・平和記念式典が行われた。原爆に奪われた約28万人の尊い命。この惨劇を忘れることなく、そして二度と核兵器による悲劇を繰り返えさないことを誓いあった。同時に、東日本大震災による福島第1原発事故を目の当たりにし、今後、人類がいかに核と向きあっていくか問いかけられている。

この度、被爆者、中村昭雄さん（84歳・芦品分教会教人）から「原爆の記憶」という貴重な体験記を寄稿頂いた。

中村さんは昭和20年、18歳で召集、入隊。そして8月6日被爆。終戦後、被爆というハンディを背負いながらも仕事に従事。昭和62年、定年退職を機に修養科志願。修了後、今日までの24年間、所属教会の朝づとめには、欠かすことなく夫婦揃って勇んでつとめられている。

▼運命を分けた盲腸炎

昭和20年3月私は会社で腹が痛くなり昼食後に早退し帰る途中に嘔吐を2、3回する。やっと帰り寝たが腹が痛く、一晩中眠れず、朝一番に町立病院に運ばれ診てもらう。

盲腸炎と言われ手遅れかもしれない、と言われ直ぐに手術をした。

幸い手遅れでなく、それでも手術は長く1時間30分も懸かる。普通なら早ければ20分位いで終わるのです。

後日この病気が私の命を救う事となりました。

戦局は益々厳しくなり、我が国の兵が足らなくなり徴兵検査が20才で行われていたが、19才に切り下げられたが未だ足らず、18才に又切り下げられ、私は4月に徴兵検査を受けた。「第二乙」になり7月に召集令状が来ました。

「7月30日芦品部隊に入隊せよ」との事。入隊して翌日、皆不慣れで朝食を食べる間もなく全員集合の声が掛かる。私たちは飯盒にご飯とおかずを入れて朝食は食べずに集合する、ご飯は汽車の中で食べる気でいたが、大変な間違いで、府中駅から広島経由で海田市駅迄行くのですが福塩線は満員で食べる事は出来ない。福山から広島までは貨物列車で無蓋車に乗る。貨物列車では座る事は出来たので、やっと食べられると飯盒を出して見れば、暑い中を昼過ぎ迄持って乗ったので傷み、

変な匂いがして食べられない。入隊早々大変な目にあった。

▼兵舎で炊事係に選ばれる

朝早く出て、海田市の兵舎に着いたのは午後４時ごろ。兵舎の広場に全員集合。

私等は２中隊で来たのです。隊長の訓示の後、「各小隊から２名炊事係を出せ」と言われ、小隊長が「炊事係の希望者は一歩前に出よ」他のものは解散。と言われ、私は１歩前に出た。

２名と言われたのに11名も希望者が出て居るので、１人ずつ「なぜ炊事を希望したかその訳を言え」と言われ、皆それぞれに言うて居たが、私は「盲腸の手術をして間が無いので出来れば炊事係をお願いしたい」と言ったら、「良ろしい」と炊事係の許可が出た。

他に１人足が痛いと足に包帯を巻いていた者が選ばれた。炊事係に選ばれた事で後日、命が助かるとは夢にも思っていなかった。

炊事係は朝が早い。３時に不寝番が起こしてくれるが眠たくてし方が無い。炊事場に行って見ると皆来ていた。

班長の指示で私はご飯を炊く事になり、米と大麦半々を水で洗う。大麦は家で食べる裸麦と違い少し大きく、中の筋が少し固い。古いのかカビが有る。釜は家に有る様な釜で無く、平釜で薪を燃やして炊くので、底着きが多く出きる。底着きを取るのが一仕事ある。

底着きは米ばかりで美味しいが私達の口には入いらない。炊事軍曹が皆持って帰る。炊事軍曹は兵舎にはいなく、民家から通って居るので皆持って帰るのです。

食事の支度が出来たら、各班の炊事当番が取りに来るので、渡せば私らの仕事は済むと思ったら他に仕事があった。

▼ふけ飯のごちそう

下士官室と部隊長の部屋に食事を持って行くのが炊事係の任務となっている。交代で行く事にしたが、誰も行くと言わないので「私が部隊長の部屋に行く」と言ったら他に２人、「下士官室に行く」と言った。部隊長の所は１人で、下士官室は２人で行く事になっている。私は部隊長の部屋の前で大きな声で「炊事係中村２等兵食事を持って参りました」と言ったら、「入れ」と言われ、「入ります」と、言って入ると「其処え置いとけ」と言われ置いて、「帰ります」と言って私は帰る。

下士官室に行った者は中々帰って来ない。帰って来なければご飯が食べられない。しばらくして「大変な目に合った」と言って帰って来た。入る時に声が小さいと怒られ、入る迄に何回も出たり入ったりして怒られた。箸の置き方が悪いと言われ部屋を出る迄生きた気がしなかったという。

炊事軍曹が怒り、明日は「ふけ飯を食わせてやれ」と言われた。ふけ飯とはご飯の上に頭のふけを落として食べさす事なのです。翌日早速フケ飯を作り食べさした。皆揃って朝食を食べる。片附けて炊事係の者は朝が早いので昼迄寝る。

芦品部隊の任務は、今の平和公園の所に県庁の建物が在って、其の建物を守るために周囲の家を壊すのが任務。「家屋疎開」である。８時頃迄には行か無ければ為らないので７時前には出発する。

兵舎は静かなので良く眠れる。

午後、暑いので近くの川で１時間位泳いで、風呂が無いので体を洗って風呂の代わりにする。他の兵は汗をかいても風呂にも入れず可哀想だ。毎日泳ぐのが日課で、泳いで帰ったら夕食の支度をする。

広いグランドの半分以上が芋畑で、其の芋蔓を皆で翌日食べるだけ刈り取る。芋蔓が味噌汁の具になる。良く洗って茹で、汁に入れる。此れが毎日の仕事なのです。毎日毎日焼け付く様な暑さがつづく。

▼「ピカッ」原爆投下の瞬間

８月６日の日も朝から暑い。何時もの様に炊事が終わり、２階に上がって寝ようとしたとき、警

戒警報のサイレンが鳴りだしたので、窓のところに出て見たら広島の上空をB29が1機飛んでいた。1機ならたいした事はない、と皆見ていたらキラキラ光るものが4・5枚落ちて来た。誰かが電波防止の亜鉛板ではないかと言った時『ピカッ』と強烈な光がして思わず顔を背けた。見れば広島の方に猛烈な砂煙が「パッパッ」と上がっていた。

「大きな爆弾を落としたどお」と言った時、『ドガン』と言う大きな音と同時に、猛烈な爆風が来て、兵舎が倒れるかと思うほど揺れた。気が付けば皆部屋の中頃迄飛ばされていた。吃驚して布団を持って皆グランドの芋畑に逃げる。芋畑に布団を被り広島の空を見上げて驚いた。オレンジ色の実に美しい雲がもくもくと上っていた。この雲が10万人以上の命を奪った恐ろしい原子爆弾の雲とは当時は分からなかった。しばらく芋畑に居たがB29も居なくなったので出て見たら、広島方面から多くの人が逃げて来て兵舎が避難所になった。10時頃には兵舎に多くの人が逃げて来て火傷や傷の手当てをしてもらっていた。私達も寝てはいられず、皆の手伝いをする。

逃げて来た者に何処に爆弾が落ちたのか、と聞けば駅の方から逃げて来た者は駅に落ちたと言うし、比治山方面から逃げて来た者は比治山に落ちたと言う。色々聞いて居ると芦品部隊の場所が爆心地に近いのではないかと心配になる。

午後2時過ぎ「全員集合せよ」と号令が出た、全員と言っても炊事係の私達12人と作業に行かず休んで居た12、3人の者だけで、「只今より芦品部隊の救出に出発する」と言われた。その時私は手を上げて「全員出て行っては逃げて帰って来た者の治療が出来ないのでは無いのですか」と言ったら、「お前残って見よ」と言われ、他に1人か2人で残り、他の者は全員、爆撃で燃えている広島に出発して行った。

▼しんどい、苦しい、水をくれ！

この時残ったのが良かったのです。原子爆弾で放射線にやられるとはこの時には誰も夢にも思っては居ませんでした。この時行った者は皆んな後日原爆症で早く亡くなった。

私達2人は火傷の薬に卵の白身が良いと言うので、手に入り難いのに炊事軍曹が20個程持って来てくれた。割って白身を取り黄身は炊事軍曹が持って帰る。私達の口には入ら無い。日が暮れても逃げて帰る者は1人もいない。8時頃2人帰って来た。広島から川を下り海に出て海岸沿いに帰って来たと言う。火傷も外傷も無く元気で帰ったと思ったが、むすびを出しても欲しく無いと言って一口も食べない。あれほど食べる事には餓鬼の様に食べて居た者が何も食べずに水だけ飲みたがる。私達は不思議に思った。夜中の1時頃迄に10人位帰って来たが誰も皆何も食べない。「しんどい、苦しい」と言って水だけは飲む。放射線にやられているとは思ってもいない、翌日には2人亡くなった。

▼驚きと怒りの光景

翌日芦品部隊長が来て、私等2人に「広島へ救出に行け」と言われ「担架を持って東練兵場に日野伍長が逃げていると言うから救いに行け、私も一緒に行くから」、と言われ3人で行く。15分程歩いた時馬車引きが来た。部隊長が止めて駅迄乗せて来れる様話して私等3人は馬車に乗り駅迄行く。駅近くなった時部隊長が「私は用事があるから降りるので2人で日野伍長を救出して日赤病院に行け」と言って馬車から降りて行かれ、少し行って私等も馬車から降りて東練兵場に向かって歩いてゆく。

私は焼けた死体を見たら恐怖で何も出来なくなるのではないか、と心配しながら行く。練兵場に着くや、目の前に広がる光景に恐怖は消え、驚きと怒りで一杯になる。広い草原に焼けた死体や負傷者が数知れず倒れている。

私等は担架を持って歩いているので、死に掛けた兵がひょろひょろと立ち上がり、乗せてくれと言う。死んでいると思った兵が立ち上がり、手を出すので吃驚して思わず、ととっと前に行ったら

ばたっと倒れた。乗せて遣れば良いのに私達には部隊長の命令で日野伍長を救出する任務が在るので仕方がない。

広い練兵場を大声で「日野伍長ー日野伍長」と叫んで歩く。広い練兵場にテントで仮の救護所が3箇所あって大勢の負傷者が収容されている。其の3箇所も「日野伍長ー日野伍長」と探して歩く。昼過ぎ迄探したが日野伍長は見つからないので諦めて日赤病院に行く事にして練兵場を後にした。

▼石段に人の影が

広島市内に入ると建物は殆どない。半壊のコンクリートの建物が所どころに見える、呉の海兵団が食事に乾パンを市民に配っていた。私達も昼食に乾パンを貰う。市民は1人1個だが私等兵には何個でもくれる。私は3袋貰う。水は水道が壊れ何処でも出ているので其の水を飲みながら乾パンを2袋食べて電車通りを日赤病院へと行く。

暑い中を行って居ると、壊れた建物の前の石段に人が座った影がはっきりと焼け着いていた。私等も其の石段に腰を下して少し休む。直ぐ前には電車が完全に焼けて、中に黒く焼けた死体が在るがもうどの様な死体を見ても何ら気にならない。

又歩いて日赤病院に行く。着いて驚いた。真っ白い日赤病院は焼ける事なく、完全に建ち残り道路一つ離れた文理科大学は瓦礫となり跡形もない。

真っ白い建て物で『ピカッ』と光った熱線を反射して焼けずに残ったと思う。爆風で窓などは吹き飛んでない。

この建物が、残ったお陰で大勢の者の手当てが出来た。門から病院入り口までの広場に負傷者が一杯で足の踏み場がない。何とか人を分け分け中に入り皆の居る所に着く。

▼同級生の死

私が「日野伍長の報告」をしていたら、直ぐ足元で「中村か」と言うので見れば背中一面焼けてひと皮むげ、血筋が出て油が浮いているのに、薬も何も手当をしてない。私は「高尾か？ やられたのおー」と言ったら「おーやられた」と残念そうに言った。

直ぐ中に入り看護婦を連れて来ようと思ったが、日赤の看護婦は1人もいない。皆地下に居て出て来ない。他から応援に来た者ばかり。

私は白い塗り薬と、筆と油紙を貰い、傷に着けたが油が出ていて思う様に付かない。「痛いか」と聞いたら「冷たいので気持ちが良い」と言う。彼は青年学校の同級生で用土の高尾と言う。「頑張れよ」と言ったら、「おう勝つまでは死なれはしない」と言ったが翌日には帰らない人となった。

高尾の手当を済ましたら、「てるちゃんかー」と言うので見れば、実家の裏の大森のお父さんではないか。火傷も傷も無いので「良かったなあ」と言って乾パン出して上げたが欲しくない、水をくれと言われるので水を上げる。この時は大森のお父さんは大丈夫と思った。他の者の手当をして廻る、病室に寝て居るのではない。大森のお父さん等も皆廊下に寝ているのです。重傷者を4名トラックに乗せて其の日は帰る。

▼今度の爆弾は毒ガスだ

翌日は「建物を掘起こして探せ」と言われ皆な鳶を持って現場に行く。

「今の平和公園」で此れから作業に掛かろうとした時、「掘り起こしてはいけない、この度の爆弾は毒ガスの様な物で掘り起こせば作業者がやられる」と、連絡が来て中止となる。仕方がないので念を入れて見て歩く事になった。

県庁の建物が鉄筋の柱が3本残って吹き飛んで何も無い。中々見つからない。死体は幾等でも在るが、芦品部隊の者で、誰で在るかが分からなければいけない。皆で5名程見つけ1人ずつ並べて焼く。川の中には多くの者が暑いので水を求めて入り、水死体となって多く浮かんでいる、其の死体を川に入って上げて居るのは青い服を着た囚人達である。

其の日帰る時、大森のお父さんが「連れて帰っ

てくれ」と言われるが私には如何も出来ない。翌日も探しに行く、暑い中探したが中々分からない。初めに見た時は元気に思えたが今日の大森のお父さんを見たとき、これはもう駄目だと思った。こんなに早く悪くなるとは思ってもいなかった。負傷者を皆今日は連れて帰る事になった。負傷者はトラックで宿舎に運ぶが、私等18名は班長に連れられ海田市の宿舎に歩いて帰る。暑い中を休み無しで歩くので、喉は渇き水も水筒に無くなり、道の辺りで水道が壊れ、水が吹き出ているのを見て欲しくなり、班長の隙を見て、私が水筒を4個持って水を飲みに行く、水筒に水を入れ、隊列に入る直前に班長に見られた。「貴様は何をしとる馬鹿者」と言うや顔を殴られた。其の時、軍のトラックが『ぱっ』と止まり、助手席の窓から将校が軍刀の鞘で班長の胸を突き、「貴様は兵を殴るとは何事だ」と怒り私にお前は行け。と言われたので私は隊列に帰り、皆に水をやり「夕食は皆食べられんどー覚悟をしとけよ」と言った。皆は「夕食より今の水の方が良い」と言って喜んでくれた。

▼明日、全員芦品部隊へ帰るぞ

暫くして、班長は戻って来たが一言も何も言わない。宿舎でも何も言わないし、夕食も食べたが、皆気持ちが良く無い、後で何かが在るのでは無いかと心配したが、其の時「明日は全員芦品部隊に帰るから」と連絡があった。皆はもう心配はないとほっとする。

翌日海田市駅迄負傷者を担架で運んだ。列車の中に1両畳を敷いた車両があって、其の車両に負傷者を寝かして帰る。

福山駅に着くと、福山は空襲でやられ電柱が未だ燃えていた。福山の陸軍病院は焼けて春日の小学校が仮の陸軍病院になって居るので列車を切り離し、福塩線で横尾駅迄行き、横尾からトラックで春日の陸軍病院迄連れて行く。

此れでやっと任務が終わり芦品部隊に帰る。部隊に帰ると、婦人会がむすびを用意してくれていた。真っ黒い中、星の光でむすびが光って見える。其の銀飯の美味しさは今も忘れない。其の日、直ぐ除隊となり我が家に帰る。

家に夜中の11時過ぎに帰ると、家では一度は死んだ者と思って、葬式の支度迄して居たので夜中に帰って吃驚し大喜びする。

私は喜んでばかりは居られない。直ぐ裏の大森さんの戸を叩いて起こすと、吃驚して起きて出て来た。私は大森のお父さんを春日の陸軍病院に連れて帰って居る事を話し、明日朝一番の汽車で行きなさいと言って上げた。

一番の汽車で行ったお陰で死に目に会えた。行って間も無く亡くなったと帰ってから私に礼を言われた。

▼核は恐ろしい

わずか10日程の軍隊生活でしたが良く助かったものだ、運が良かったと思って居たが、今では父母が良く信仰してくれたお陰だと思って、心より感謝している。

核は恐ろしい。私は身をもって体験している。世界から核は無くしなければ為らない。

勇んでつとめられる中村昭雄さん夫妻（芦品分で）

温故知新

いきいきエピソード　7

閑話休題　我が「いきエピ1」

「温故知新」は肩が凝る、との声が聞こえてきた。無理もない、こちらも毎回肩を凝らせながら書いている。しかし私にとっては肩が凝るけれども、懐かしい取材の想い出でもある。ま、気長に付き合って頂けたら有り難い。今日は、閑話休題という事で、私のいきいきエピソードを書いてみたい。「1」としたのは、時々こういうエピソードを書いてもいいかなと思ったからである。「いいとも！」と言って下さる事を期待して、それでは・・　老会長夫妻の米寿の御礼つとめがつとめられ、その後、老会長が一言と言って演台に立たれた。参拝者は少なく、結界の中に役員がかなりの人数坐っていた、と記憶している。後で記念品として参拝者に袱紗を頂いた事を憶えている。その袱紗は今も大事に使わせて頂いている。

その時又長くなりそうやな、との思いで聞き始めた話であった。なぜか話が台湾の事になっていった。老会長は本部准役員を拝命し、そして台湾伝道庁長として戦時中、台北に赴任していた。その間、老会長は本部の要請のもと、昭和17年8月7日から9月6日にわたり一カ月近く掛かって中国の厦門の本部出張所へ神実様を奉持して船で出張している。大変な揺れだったらしいが、老会長は船酔いもせず、「わしがいつも時間になったら食事に行くので、船員がビックリしてたワ」とその時の事を話してくれた。

それで、この時の米寿の御礼つとめの後の話の中で、昭和19年に庁長をやめて本部詰所詰を命じられた時の話が中心となった。

笠岡大教会史年表に次のように記してある。

4月26日　午後「台湾伝道庁長上原繁雄、本部詰所詰を命ず　　後任庁長三浦清太郎」の電報あり。早速帰本の便船手配する

5月18日に基隆を出発しているので、もう既にこの頃、台湾航路は危険で便数が少なくなっていたのではないかと思われる。

以下次のように話してくれた。

「米国の潜水艦が出没するようになって、3日が5日、それが1週間とあちこちに寄り道してホントに命懸けでの往き来でした。切符の販売員が言いよりますねん。子供さんいはりますか？　はいと答えると、あかちゃんですか？　はいと答えると、あかちゃんは荷物扱いですねん。はあ？　潜水艦にやられますやろ、船を軽くするために先ず積荷を海に捨てます。全部捨てると、次に海に捨てるのはあかちゃんなんです。伝道庁に帰って家内にこの話をしましたら、よう帰らん言いますねん。まあ、9ヶ月のあかんぼうを持っている母親としては当然ですわな」

老会長はその時、ワシはこう思う。と言って次のように母親に話したという。

「本部から電報戴いて帰って来い言われた。直ぐ便船手配した、それで予約できた船や。本部に帰れる船はこれだけや。この船で帰る。この船で帰ろう」

老会長一行は予定通り5月18日基隆出発、5月24日門司に着いている。

この時の9ヶ月のあかんぼうは私である。私のおまもりには5センチ・3センチぐらいの大きさの木札がついていたのを記憶している。木札には、氏名・生年月日・台北市御成町00番地（記憶が定かでない。伝道庁の住所であろう）が墨書してあった。私はこの木札を無くしてしまったが、恐らくあれは船に乗船する時、船会社から言われて付けた荷札だったのではないか、と思う。

今こうして「閑話休題」などと笑って書いてはいるが、私はこの時九死に一生を得たのだと思う。この米寿の御礼つとめの後の話は、その時私には初耳であった。昭和56年9月20日の事である。

（笠岡史料部長）

教会おとまり会の報告

▼西伯隊

実 施 日　平成２３年３月２９日・３０日
参加者数　少年会員７人　育成会員４人　合計１１人
少年会員の内２人はみきの同級生（未信）
実 施 日　平成２３年３月３０日・３１日
参加者数　少年会員５人　育成会員３人　合計　８人
少年会員の内２人はみゆの同級生（未信）
プログラム　１日目　１７：００　集合、夕食手伝。
１８：３０　夕づとめ参拝。
夕づとめ後　おつとめ練習。友達２人は拍子木･チャンポンをはじめて練習しました。
２２：００　就　寝。
２日目　朝食･昼食など手伝い、話し合ったり近くの公園で遊び
１６：００　解　散。

３０日　教会の２人は鼓笛練習･おつとめまなび総会のため朝出発しました。
所　感　同じ日に都合の良い日がなくてこのような結果です。
用木家庭の子供２人は、祭典の前日に（年に春休み･夏休み･冬休みだけ）泊って夕づとめに参加して今日の出来ごとを話したり、今月のめどう（子供たちのきめごと）をいっしょに唱和しました。
今月も祭典の前日から（８／８～８／１０）泊りました。９日の夕づとめ後に拍子木を練習しました。いつの日か祭典のおつとめ人数に加わってもらいたいと思っています。

▼陶山隊

実 施 日　平成２３年５月１４日・１５日
参加者数　少年会員１０人　育成会員４人　合計１４人
プログラム　１４日　１７：００　集　合。
３０　夕　食。
１８：４５　夕づとめ、神様のお話。
花火、ＤＶＤ鑑賞、入浴、消灯。
１５日　６：３０　起　床。
７：００　朝づとめ、朝食、自由時間、ミニピザ作り。
１０：００　解　散。
所　感　こどもおぢばがえり前ということで、毎月の子ども会をおとまり会にしました。初花火でみんな喜んでくれました。ひのきしんもすすんでしてくれて、和気あいあいと、とても楽しい時間になりました。

▼福満隊

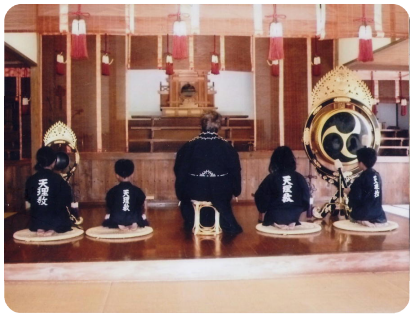
実 施 日　平成２３年７月１６日・１７日
参加者数　少年会員１８人　育成会員１３人　合計３１人
プログラム　１６日　１６：００　受 付 け。
１７：００　会長さんお話し、おつとめ練習。
１８：００　夕づとめ。
３０　夕　食。
１９：００　室内ゲーム、花火。
２０：３０　入　浴。
２２：００　就　寝。
１７日　６：００　起床　洗面。
３０　ラジオ体操
４５　朝づとめ、会長さんお話し。
７：００　ひのきしん。
１５　朝　食。
９：００　海水浴、すいか割り。
１２：００　昼　食。
１３：００　解　散。
所　感　毎年同じ内容で申し分けない気もしますが、かと言って変わった事も出来ません。
おつとめの練習を真剣につとめ、すぐに憶える子供達に感心します。

▼福昭隊

実 施 日　平成２３年７月２４日・２５日
参加者数　少年会員６人　育成会員５人　合計１１人
プログラム　２４日　１５：００　集合。続いて神殿そうじひのきしん。
１７：００　夕　食。
１８：００　夕づとめ。
２０：００　花　火。
２５日　５：３０　起床、洗面。
６：００　朝づとめ。
７：００　朝　食。
８：００　くさとりひのきしん。
３０　解　散。
所　感　小学生２人、幼児４人のおとまり会ですが毎年開催していて１年１年子供達が成長していることに喜んでいます。今後とも毎年おとまり会を実施して１人でも多くの少年会員に参加してもらえるよう丹精をさせて頂きます。

▼芦加茂隊

実 施 日　平成２３年８月６日・７日
参加者数　少年会員１０人　育成会員４人　合計１４人
プログラム
６日　１０：００　祭典参拝。
１３：００　昼食（カレー）、子供達は食事から参加。
１４：００　後かたづけ、ひのきしん、おつとめ練習。
１７：００　夕づとめ。
１８：００　町内の夏まつり参加。
２１：００　花火、入浴。
２２：００　就　寝。
７日　５：３０　起　床。
６：００　朝づとめ。
３０　ラジオ体操。
７：００　朝　食。
８：００　解　散。
所　感　月次祭参拝からでしたが、それぞれ行事がありお昼食から参加してくれました。おつとめの練習だけで帰るものもありました。
おとまりは４名です。小さい子供達はおとまりは親と一緒でないとむずかしいです。早く大きくなるのがたのしみです。



▼島根隊

実 施 日　平成２３年８月８日・９日
参加者数　少年会員５人　育成会員３人　合計８人
プログラム
８日　１８：３０　夕づとめ 参拝、会長 はなし。
１９：３０　入　浴。
２０：００　夕　食。
９日　６：００　朝づとめ 参拝、会長 はなし。
７：００　朝　食。
８：００　ゴミひろい ひのきしん。
９：００　北浦 貝ひろい。
所　感　おいっ子、めいっ子を集めてのおとまり会でした。とても喜んでいました。
寒くなったら、こどもおぢばがえり参加の子供に呼びかけ又させて頂きたいと思います。

▼海松ヶ岡隊

実 施 日　平成２３年８月９日・１０日
参加者数　少年会員２５人　育成会員１０人　合計３５人
プログラム
　９日　１６：００　集　　合。
　　１７：００　おつとめ、食事。
　　１９：００　室内オリンピック。
　　２１：００　入　　浴。
　　２２：００　消　　灯。
　１０日　　５：４５　起　　床。
　　６：１５　おつとめ、朝食。
　　７：００　ひのきしん。
　　８：００　おつとめ練習。
　　１０：００　プ ー ル。
　　１２：１５　昼食、解散。
所　　感
　たのしかったみたいです。
　例年とちょっと内容と日程をかえてみました。例年は、夜はビデオ、土日でやってました。

▼上下隊

実 施 日　平成２３年８月１０日・１１日
参加者数　少年会員２５人　育成会員８人　合計３３人
プログラム
　１０日　１６：００　集合（各自 名札作成）。
　　３０　はじまりの会、ゲーム・ソング。
　　１７：３０　夕食（カレー）。
　　１８：１５　おつとめ練習。
　　３０　夕勤め（会長 教話）。
　　１９：１５　おたのしみ行事（お泊り会選手権）。
　　２０：１５　おやすみ行事、入浴。
　　２１：３０　就　　寝。
　１１日　　６：１５　起床、洗面。
　　３０　朝勤め、ラジオ体操。
　　７：１５　朝　　食。
　　８：３０　ひのきしん（神殿回廊、ガラス）。
　　９：３０　ペーパークラフト。
　　１１：３０　昼食（バーベキュー）。
　　１２：３０　おわりの会（選手権表彰式）。
　　１３：００　解　　散。
所　　感
　参加してくれた子の殆どが信者子弟では無い子で、こどもおぢばがえりに参加してくれた子供達が誘ってくれたみたいです。
　今後も、この子たちの丹精に勤めさせて頂きたいと思います。

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます
親神様には子供かわいい一条の親心のまに〳〵 日々は結構に恙なくお連れ通り下さっております 中でも今は残暑厳しい中ではございますが 秋雨前線の影響で暑さが和らいだのに加え 夜毎に虫の音が大きくなり心なしか涼しさも加わり秋の気配を感じる季節となり 実りの秋の期待に胸ふくらませつつ日々生活（くら）させて頂いております事は 誠に有難く勿体ない極みでございます
私共は旬々にお見せ頂く身上や事情にとまどいをおぼえながらも そこに込められた「救けたい」との親心を感じとらせて頂いて陽気ぐらしへと心の向きを変え より成人の道を歩ませて頂くべく 朝夕に御礼を申し上げご恩報じを思い念じ つとめとさづけを通してたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日はこれの笠岡にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜びと感謝の心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて八月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお縋りする皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて 今年の子供おぢばがえりも誘い合わせて笠岡から大勢帰らせて頂きました 仕込み伏せ込み行事やお楽しみ行事を通して親神様・教祖のお働きや一人ではなく共に楽しむ事の大切さを学ばせて頂きました 又少年ひのきしん隊にも参加させて頂き人に尽くす喜びも味わわせて頂きました 大きな事故怪我もなく結構にお連れ通り頂いた事をお礼申し上げます その他 学生生徒修養会高校の部 英語講習会 各教会でのお泊まり会等の参加を通して子供達の育成に力を注いで参りました 引き続き野外キャンプや教会お泊まり会等を開催させて頂きますので宜しくお連れ通りの程をお願い申し上げます
更には又 来月末は全教一斉にをいがけデーとなっており来月一月（ひとつき）はにをいがけ強調の月とのお打ち出しを頂いておりますので 記念祭に向けての強調実践項目であります「一日一件にをいがけ」に心を添わせ より一層勇んでにをいがけに邁進させて頂いて 記念祭に向けての成人の歩みによりはずみをつけさせて頂く覚悟でございます
何卒親神様には 旬の理に遅れまいと親孝心一筋にたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 皆の一つ一つの御用を通して縦と言わず横と言わず一人でも多くの人に御教えが広がり お望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

＜実行委員会＞

○創立120周年記念祭について

・参拝者　目標　３，０００人（８月２０日　第１回集計　１，４７０人）
　９月２０日　第２回参拝予定者報告
　９月２１日　係員打ち合わせ
・おつとめ時、部内教会長は教服にて結界内で参拝。

＜神 事 部＞

○神殿奉仕当番について

・９月から実施している（部内教会は２ヶ月に１度。その部内教会は３ヶ月に１度）

＜庶 務 部＞

○「教会長・布教所長家族調査票」について

・配布物は、必要事項をご記入の上、必ず提出してください。
・提出締切日を設けておりますが、出来次第、提出願います。

＜布 教 部＞

○全教一斉にをいがけデー

・９月２８日～３０日
・２８日　教会長路傍講演の日

○本部食堂ひのきしん

期　間　１０月1日（土）～１０月１５日（土）　島根

○秋季大祭詰所受入ひのきしん

期　間　１０月２５日（火）昼食～２７日（木）昼食
各ブロック１人　計６人

＜管 理 部＞

○大教会ひのきしん

・神殿正面石段補修、手すり･渡り廊下ペンキ塗り、剪定ひのきしん、障子張り替えひのきしん（婦人会と合同、１０月３日～５日）

＜詰 所 掛＞

○詰所帰参帳簿には必ず記入願います

＜青 年 会＞

○青年会員のつどい

日　時　１０月３０日（日）午前８時半受付開始、午前９時開講。午前３時３０分頃解散予定。
場　所　笠岡大教会
対　象　青年会員
内　容　お話（大阪教区青年会副委員長：酒井耕平さん）、ひのきしん、ＤＶＤ上映（初代の足跡）、グループタイム等。
参加費　５００円

＜少 年 会＞

○立教１７４年こどもおぢばがえり帰参者

・少年会員－７８７人、育成会員－５０５人　計1，２９２人

＜学生担当委員会＞

○学生生徒修養会・高校の部

８月９日～１５日　参加者　１２人（全体　１，３５５人）

大教会だより

◎第八四五期修養科

自 立教174年6月1日
至 立教174年8月27日

＊教養掛

三ヶ月間　三代温生（大教会准役員・雲東分教会長）

一ヶ月目　内海安子（島中分教会長）

二ヶ月目　仙田勉（出雲川津分教会長）

三ヶ月目　藤井治喜（福節分教会長）

＊修了者

吸江西村理人
吸江山本裕三
松都勝田直樹
東水島國末佳子

◎教人資格講習会修了者（全期）

立教174年9月10日終講
雲東三代節生

◎教会長資格検定講習会修了者

立教174年9月19日終講
福山田中亜輝
髙屋武内清和

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌十月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「祈」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠　川島郷分教会前会長　香取敏子さん

ない生命祈る真実に教祖がみえ

佳詠　川島郷分教会長夫人　香取律子さん

甘露台長き祈りにあかりみえ

▼**表紙の書**

天場山分教会　役員　野津正樹さん

よりみち

「アア　ウウ　ウンウン・・・」テレビを見ていると、二歳になる息子が、言葉にならないことばでしきりに何かを訴えてくる。家内が「またあのビデオを見る！と言ってるよ。」と教えてくれる。「エッまた？これで何回目？・・・」色々ごまかしてみるが聞き入れられず、仕方なくビデオに切り替える。こんなやり取りが、ここ数日続いている。

息子は、今年初めてこどもおぢばがえりに帰らせて頂いたのだが、その時のビデオが家内の実家から届いたのである。朝の起床から伏せ込み行事、お楽しみ行事、おやさとパレード参観とこどもおぢばがえりの様子がよくわかる。特に息子は、おやさとパレードの映像がお気に入りである。幼い心は、その色彩・音色、華やかさ、楽しさに大きな衝撃を受けたようである。その時の感動を思い出しているのだろうか、食い入るように見ている。そして、その感動を共感してもらいたいのか、一緒に見ろという態度である。こちらは、同じ映像に、もはや苦痛すら感じているのだが・・・。

息子にとって、今年のこどもおぢばがえりは、感動的なうれしいものとなったことだろう。この感動をいつまでも忘れないだろうか？この感動はいつまで続くのだろうか？そして、このビデオ鑑賞はいつまで続くのだろうか？　（は）